

公園の概要

紫金山公園は本市の中心部に位置する総合公園です。名神高速道路の南北にまたがり、吹田サービスエリアに隣接しています。南側は起伏に富んだ地形となっており、吉志部神社の背後の鎮守の森や吉志部瓦窯跡などの史跡、吹田の歴史や文化を伝える吹田市立博物館、釈迦ヶ池（面積約3.0ha）などがあることも特徴となっています。

公園の周辺は住宅地、学校などの文教施設が立地しており、子供から大人まで幅広い年代の地域住民に利用されています。

紫金山公園の名前の由来といわれているコバノミツバツツジは、明るい林を好むため、樹木を間引くなど、市民を中心とした保全活動が進められています。コバノミツバツツジ以外にもさまざまな動植物が観察できる場所として生物多様性の保全を目的とする「モニタリングサイト1000」に登録され、市民によるチョウ類などのモニタリングが行われているなど、まちなかの公園でありながら豊かな自然を感じることができます。

種 別：総合公園

開 設：昭和48年（1973年）4月1日

所在地：吹田市岸部北4丁目、五月が丘東

開設面積：8.4ha（都市計画面積11.4ha）

その他：史跡指定（吉志部瓦窯跡）、埋蔵文化財包蔵地、広域避難地



コバノミツバツツジ



釈迦ヶ池

※釈迦ヶ池は未開設区域



南側広場



元気広場



北側広場



吉志部神社

※吉志部神社は公園区域外



吹田市立博物館

公園の課題

①自然環境や歴史の保全

紫金山公園は市街地の中で豊かな自然を感じられる貴重な空間となっています。2001年にはこれらの自然や歴史的な資源の保全、活用に向けた「吹田風土記の丘・紫金山公園基本計画」を市民参画により策定し、整備が行われてきました。

計画の基本的な考え方や、これまでの取組を踏まえつつ、魅力を発信するデザイン力を高めたり、地域における生物多様性保全に知見のある民間事業者などとの連携など、新たな風を吹き込むことも必要です。

②安心・安全な利用環境の確保

紫金山公園は起伏に富み、市民ボランティアによる散策路整備など、健康づくりや身近で気軽に心身のリフレッシュが図れる場ですが、樹木が鬱蒼と茂っていて「近寄りがたい」と感じている利用者もいます。公園内の複数の広場が分断され、場所のわかりにくさ、移動のしづらさが感じられます。また、広域避難地であることから、防災機能のハード・ソフト両面からの充実が求められます。

より多くの人が紫金山公園の魅力を感じることができるようにするためには、安心・安全でわかりやすく、訪れたいくなる利用環境の確保やバリアフリー化、防災機能の向上が必要となります。

③市民活動の次世代への継承

現在園内では市民団体による環境保全活動が継続的に行われていますが、メンバーの減少なども見られるようになっていきます。

将来にわたって紫金山公園の魅力を維持・向上させていくためには、現在の活動を次世代へと引き継ぎながら、市民による新たな利活用を促し、市民、事業者、行政など、多様な主体が協働して公園を利用・管理する持続可能な仕組みを考えていくことが必要となります。

魅力向上に向けた理念

Mori Mori 里山※ Park

「人×活動×交流×持続」
～つむいで めぐって まざって つづける 吹田の真ん中 紫金山！～

※ここで言う里山とは、紫金山公園の象徴的な樹種であるコバノミツバツツジに日の光が当たるよう、定期的に常緑樹の間引きなどを実施し、明るい樹林地が形成・維持されるような自然環境。

目標像（パークビジョン）

個性と活力のある都市づくりを実現！

- 国の史跡や博物館、里山など他にはない特徴を、市民など多様な主体とともに、デザインや様々なツールで発信していきます。
- 北側と南側の周遊性を高める、利用者がそれぞれ異なる地形や特徴を楽しみ健康づくりに活かすなど、Well-beingに貢献できる公園を目指します。

災害に対してレジリエントな都市を形成！

- 災害時に活用できる施設や、グリーンインフラの持つ延焼防止や雨水貯留など多様な機能を活用できる公園を目指します。
- 平常時からイベント利用などを通じて、災害時の対応につながるような、防災コミュニティ形成の場を目指します。

つながりを実感できる暮らしを実現！

- 自然環境保全や環境学習を始めとする市民活動が継続できるよう取り組み、公園協議会の設置など多様な主体が参画する公園を目指します。
- 地域に受け入れられるイベントなどを通じて、異なる世代や分野で活動する市民が交流し、新たなつながりが生まれる機会を創出します。

生き物や環境と共生する都市を形成！

- 都市地域に残る貴重な自然として保全活動に取り組む中で、市民団体と連携し、自然共生サイトへの登録や、民間事業者とのマッチングなど、ネイチャーポジティブの実現、地域の生物多様性向上に貢献する空間を創出します。
- 市民が自然に触れることができる空間として活用し、地域の自然環境の重要性を発信するとともに、市民の環境保全への意識を高めます。

ゾーン別運営方針

A	北広場ゾーン - 市民の憩いや交流など多様なニーズに対応した空間を創出します。 - 地域防災力向上に係る機運の高まりに対応した、ハード面の充実を行います。
B	吹田の里ゾーン - 田んぼやため池の生き物観察や農業体験など、市街地の中で、昔のくらしや文化を感じる貴重な体験ができる空間の保全に努めます。 - 吉志部神社と隣接する、自然環境学習・イベントに利用される公園南側の貴重な広場として、トイレの改修など、快適な空間づくりに努めます。
C	鎮守の森ゾーン - 人の手による管理を最小限に抑えつつ、自然の遷移に委ねます。 - 市民団体・民間事業者と協働で、植生調査を行うとともに、安全な散策路からの自然観察、採集が行える環境整備に努めます。
D	里山ゾーン - 市民団体・民間事業者と協働で、モニタリングを行いながらその結果に合わせて対応を変える順応的管理（アダプティブマネジメント）を実施し、魅力的な里山環境の保全を目指します。 - 案内及び説明サイン、園路などの補修・更新により、コバノミツバツツジをはじめ、誰もが自然を感じ、楽しめる里山環境を創出します。 - スタンプラリーや体験型プログラム、周辺の小中学校との連携、PRチラシなど、自然の魅力の情報発信を通して公園利用者に保全活動への参加を募り、活動を次世代へと引き継ぎます。
E	子供の遊び場ゾーン - 既存の遊具や施設などの補修・更新により、安心して遊べる空間を創出します。 - 北側広場との利用状況や立地環境の違いを活かした昆虫の森など、魅力的な空間の創出に努めます。
F	水辺探索ゾーン - 水際の植栽の管理、安全柵の補修などにより、安心して釈迦ヶ池の景観を楽しめる空間を創出します。 - ドッグランなど、利用状況を踏まえた広場空間の活用を検討します。
G	博物館ゾーン - 歴史文化の発信拠点である博物館が園内に立地することを活かし、史跡と連携した学習コンテンツの提供を目指します。 - 都市計画道路をまたぐ動線整備については、他のゾーンとの連続性を確保するよう大阪府と連携を図ります。
全体	- 博物館と連携し、公園利用や市民活動の拠点となる施設（パークセンター）の設置やデジタルコンテンツなどの整備を検討します。 - それぞれのゾーンをつなぐ主要な散策路の補修・更新と合わせ、バリアフリー化を図るとともに、距離表示による健康づくりの啓発などにより、利便性をより向上させます。

※水辺ゾーン（未開設区域）は公園を特徴づける釈迦ヶ池がありますが、釈迦ヶ池土地改良区の管理地であるため、連携を検討していきます。
 ※公園区域外である名神高速道路下の歩行空間の改善に向けて、管理者と連携し、取組みます。
 ※都市計画道路の整備にあたっては、自然環境への影響に配慮することを求めています。

目指すべき姿のイメージ



オープンな広場空間の創出



市民の活動・交流の場



水辺の散策路整備



案内及び説明サインの整備・更新



トイレの改修



災害時に活用できる施設の整備



ドッグランの設置



遊具の補修・更新



農業体験



スタンプラリー



活動のPRチラシ

※写真の施設、取組、ゾーンなどはイメージであり、決定した事業計画ではありません。
 また、ゾーンの全範囲で展開するものではありません。

